

みどりの女神が行く!

第72回全国植樹祭に参加

先月は滋賀県で開催されました第72回全国植樹祭に参加しました。

滋賀県というと琵琶湖が真っ先に思いつきます。県土の約半分にあたる森林が、琵琶湖の水を育む水源として貴重な役割を果たしており、今回の開催場所である、鹿深夢の森もそのうちの一つです。

古くから培われてきた「森林」「琵琶湖」「一人」の関わり。豊かな自然が育まれた会場で、改めて「森・川・里・湖」がつながっていることを確認することができました。

滋賀県の方々が森林を大切に育んできた歴史的経緯や、私が実際に感じた人の温かさを多くの方に知ってもらえるよう心がけて活動していきたいと思えます。



ミス日本みどりの女神

なりた あすみ

成田 愛純



▲滋賀県産の少花粉スズギの植樹



▲植樹祭会場にて

チェーンソーの特別講習を受講

神奈川県厚木市にある神奈川県自然環境保全センターにて、チェーンソーの特別講習を受けました!

以前視察した林業現場では、作業されている方が慣れた手つきでチェーンソーを操り、大きな樹をすんなり伐木している様子がとても格好良かったことを覚えています。その印象が強くて、私もぜひやってみたいと思っていました。

講習では、チェーンソーの組み立て、解体作業を通じて、どういう仕組みでチェーンソーが動いているのかを学び、木を切る際の受け口などの作り方を教えていただきました。

チェーンソーで木を切る際には力を入れず、チェーンソーの重みを上手く使うとすんなりと切れると教えていただきましたが、実際には緊張から余計な力が入ってしまい、なかなか上手いきませんでした。とにかく慎重に機械を操作し、無事に修了証明書をいただくことができました。

講習の中で一番印象に残った学びは「林業作業中の事故の多さ」です。講習中何度も先生が「危険」という言葉を発して、注意を促していました。林業はとても大変なお仕事であ

り、常に危険と隣り合わせだということ改めて実感いたしました。また、チェーンソーの操作中に事故の危険から身を守る防護服の仕組みには大変驚きました。

事故は起きてほしくはないですが、もし事故が起ってしまった時に防護服を着用していれば大きな怪我から身を守ることができそうです。

今回の講習を経て、チェーンソーの便利さとともにその扱いの難しさ、危険さを学ぶことができました。そしてそのチェーンソーを使って仕事をしている林業に関わる方々のごさも改めて知ることができました。林業に対する見方が自分の中で大きく変わったと感じます。

林業に携わる方々は安全に配慮するプロフェッショナルとして、自然と向き合っているのだと思います。皆様の安全への姿勢を多くの方々に伝えられるよう発信してまいります。



▲憧れのチェーンソーを操作